

1. 調査報告概要表

作成日平成20年11月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 3471503692
法人名	有限会社 どんぐり村
事業所名	グループホームどんぐり村
所在地	広島県福山市今津町1456-1 (電話)084-933-6138
評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成20年10月17日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	9 人
常勤	3 人
非常勤	8 人
常勤換算	6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

(4) 利用者の概要(9月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1		名	要介護2	4	名
要介護3	2	名	要介護4	1	名
要介護5	1	名	要支援2	0	名
年齢	平均 85.1 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤井クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅や農家が散在する清閑な地域にあるグループホームである。管理者は介護についての経験、知識が豊富であり、知識を学ぼうとする意欲は強く持っておられ、それに基づく介護を行なっておられる。職員と入居者はお互いに認め合う会話や動作が見られる。入居者はここで安心していつまでも暮らせると感じる雰囲気である。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の内容をよく理解しておられケース会議などで常に話し合っておられ、改善に取り組んでおられる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	グループホームでの介護の現状とあり方をまとめておられ、それに伴った取り組みがされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	ホームと地域のつながりと地域の声を聞きだす役割りが良く示されている会議である。ホームの地域開放をこのたび行われるがこのような取り組みは大いに期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の声を良く聴く努力をされている。家族アンケートからは安心しておられる様子が良く伺える。
重点項目	地域の老人が訪問して入居者と一緒に過ごされる取り組みはこれからの地域との結びつきで大いに期待されることである。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	わかりやすい理念「ゆっくり、楽しく、自分らしく」を大きく書き出している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議で理念についての話し合いがされており職員はよく理解している。理念に基づいた介護計画が作られている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の催し(祭り、敬老会など)には参加している。町内会長の訪問がある。施設を開放し地域の人たちに知ってもらい取り組みがある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は評価の内容をよく知っており評価を活かした取り組みがされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開会されており、参加者は町内会長、民生委員、包括介護支援センター職員、家族の代表である。地域との結びつきについて話し合われている。12月には施設開放される予定である。		

グループホームどんぐり村

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	県の指導により実習生の受け入れを行なっている。包括介護支援センターとはよく連絡をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会が作られており年に1回家族会が開催されている。生活状況を写真に取り毎月送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とはよく話し合うように心がけて居られ、その内容は指示連絡ノートに記録されて職員に知らせている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は担当制で入居者に対応しているが一年ごとに担当を変えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年1回は全職員に研修に参加させている。交通費、研修費は会社負担である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護事業所との交流を持っている。		

グループホームどんぐり村

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者の家族にホームの内容をよく説明されている。</p>		<p>地域の老人の訪問を受け入れておられたがこの取り組みがこれからもあることが期待される。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者と職員と一緒に食事を取りながらの会話など共に過す取り組みが見られる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>会話の中に入居者の気持ちを聞きだしてそれに副った取り組みをしておられる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケース会議で全員の声が出る。自分の思ったこととは違う意見も出るのよい話し合いとなっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月ごとに家族と相談しながらケアプランを立ててサービス担当者会議を開き全員が確認をしている。</p>		

グループホームどんぐり村

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の老人の訪問があり入居者と交流している。施設からも地域に訪問をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問があり1回は医師のところに出かけている。医師は夜間でもかけつけてくれる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときの取り組みを定めて家族、医師と相談をしている。家族の声により看取りを行なった。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の気持ちをそっと聞きながらの介護に当たっておられる。個人情報事務室にきちんと整理保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居間(共用空間)で過されることが多く、おしゃべりや洗濯物たたみなどのお手伝いをされておられる。		

グループホームどんぐり村

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食ではよく食べられるのでよく出かけている。入居者と一緒に柏餅を作って食べるなど食事を楽しみに行われる。調理専門の職員がいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回に入れるようにしておられるが希望すれば毎日入られる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	敬老会などの催しはよく行なわれている。居間での会話は楽しそうにされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、外食とよく出かけている。先日はポリョイサーカスを見に出かけた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室には自由に出入りできるようになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年に2回行っており、1回は消防署と、1回は施設だけで行っている。		

グループホームどんぐり村

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量はきちんと把握し記録している。食事は野菜、魚を中心にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事場所と居間(共用空間)が分かれており皆よく居間に出て入居者同士や職員とよく話している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、たんす、テレビなど自分のものが持込まれている。		